

「共に生き、共に支え合う、安心して住みよい あぐい」を目指して

(阿久比町障害者計画基本理念)

障がいの有無に関わらず、誰もが安心して生活できるまちを目指して、障がいのある方たちの日常生活の視点から、私たちにできることを考えてみましょう。

今回は、聴覚障がいのあるAさんにインタビューしました。



聴覚障がいとは

音が聞こえない、または聞こえにくい状態のこと。病気、事故などで生じる場合や、生まれつきの場合、加齢による場合などがあります。

インタビューを受けてくれた方



Aさん

- ・ 聴覚障がい2級
- ・ 補聴器装着



Q. 日常生活の中で、どのようにコミュニケーションを取っていますか？

A. 主に手話と口話(相手の口の動きから、言葉を読み取る方法)でコミュニケーションを取っています。家では家族が照明を点滅させて私を呼ぶという方法も取っています。

Q. 補聴器を付けている方をよく見かけますが、補聴器を付ければ聞こえるようになりますか？



▲補聴器を装着している様子

A. いいえ。よく聞こえていると勘違いされてしまうことがあります。私の場合は、補聴器を付けると音は聞こえるけれど、言葉として聞き取ることが難しいです。(障がいの程度によって、補聴器の効果は異なります)

Q. 普段の生活の中で、どんなことに困りますか？

A. 店のレジや銀行の窓口など、説明を伴う場面で詳細が伝わらず困ることが多くあります。口の動きから話している内容を読み取ることもあるため、新型コロナウイルスが流行してからマスクで口元が隠れてしまい、とても困っています。早く流行が収まって、マスクのいらぬ生活に戻ることを願っています。

Q. 日常生活の中であった、うれしい出来事を教えてください。

A. 子どもが通っている学校で、新型コロナウイルス対策で給食中の会話が禁止になったとき、クラスの中から「会話がダメなら、手話で話すのは良いですか？」と提案があったと聞きました。手話を特別なものでなく、身近なものとして感じている子がいることを知って、うれしくなりました。

※ 阿久比町障がい者自立支援協議会権利擁護部会の取り組みとしてこの記事に掲載しています。権利擁護部会では、障がいに対する理解啓発と、差別解消に取り組んでいます。

※ この広報を通じて、障がいのことで知りたいこと、知ってほしいことがありましたら、次の問い合わせ先までお知らせください。

■問い合わせ先 住民福祉課社会福祉係 ☎(48) 1111 (内1121・1122) FAX(48) 0229
電子メール fukushi@town.agui.lg.jp

